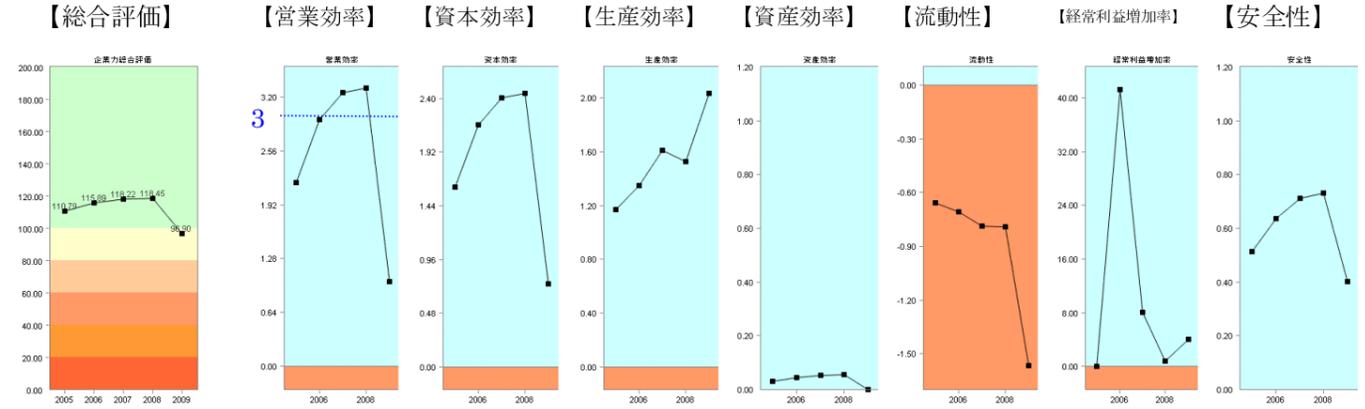


**今回は、株式会社三越伊勢丹ホールディングスを分析してみましょう。**

㈱三越伊勢丹ホールディングスは、2008 年 4 月 1 日に株式会社伊勢丹と株式会社三越と経営統合して設立されました。昨年 9 月のリーマンショック以来の恐慌の中、2009 年 2 月及び 3 月は、11 年ぶりに前年比 2 桁減となり、業界売上の縮小は加速の一途を辿っています。

㈱三越伊勢丹ホールディングス (2008 年までは㈱伊勢丹の数値を分析)



企業力総合評価は 2009 年 3 月期急落しました。下落原因は、営業効率 (儲かるか)、資本効率 (資本の利用度)、流動性 (短期資金繰り)、安全性 (長期資金繰り) の各指標が下落したことによります。

営業効率各下位指標をみてみましょう。

㈱三越伊勢丹ホールディングス (2008年までは株式会社伊勢丹の数値を分析) 単位:円・%

	2005年3月	2006年3月	2007年3月	2008年3月	2009年3月
売上高合計	628,996,000,000	760,038,000,000	781,798,000,000	785,839,000,000	1,426,684,000,000
売上総利益	182,743,000,000	221,674,000,000	225,637,000,000	226,571,000,000	397,446,000,000
売上高総利益率	29.05	29.17	28.86	28.83	27.86
営業利益	19,194,000,000	30,062,000,000	32,253,000,000	33,418,000,000	19,583,000,000
売上高営業利益率	3.05	3.96	4.13	4.25	1.37
経常利益	21,908,000,000	30,927,000,000	33,417,000,000	33,687,000,000	35,053,000,000
売上高経常利益率	3.48	4.07	4.27	4.29	2.46
当期利益	12,621,000,000	18,713,000,000	18,294,000,000	13,763,000,000	4,684,000,000
売上高当期利益率	2.01	2.46	2.34	1.75	0.33

前期と比較して改善した指標 青字 悪化した指標 赤字

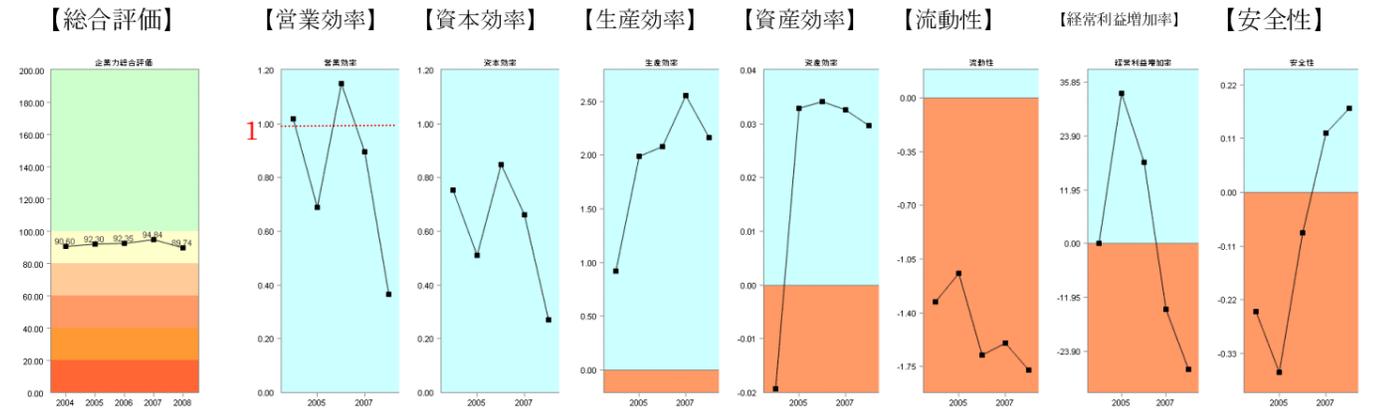
売上高総利益率は 2007 年から、悪化に転じたのに対し、売上高営業利益率が 2008 年まで連続して改善しています。デフレ下において、売上高総利益率の悪化を販売費・一般管理費を削減してカバーしてきたのでしょう。

2009 年は、㈱三越との経営統合の影響をまるまる 1 年受けています。売上高は 7858 億円から 1 兆 4266 億円と 1.8 倍に増加しましたが、営業効率各指標は軒並み悪化となりました。

それでは、経営統合の相手方、㈱三越の経営統合までの過去 5 年間で分析してみましょう。

2008 年までのデータを分析してみました。

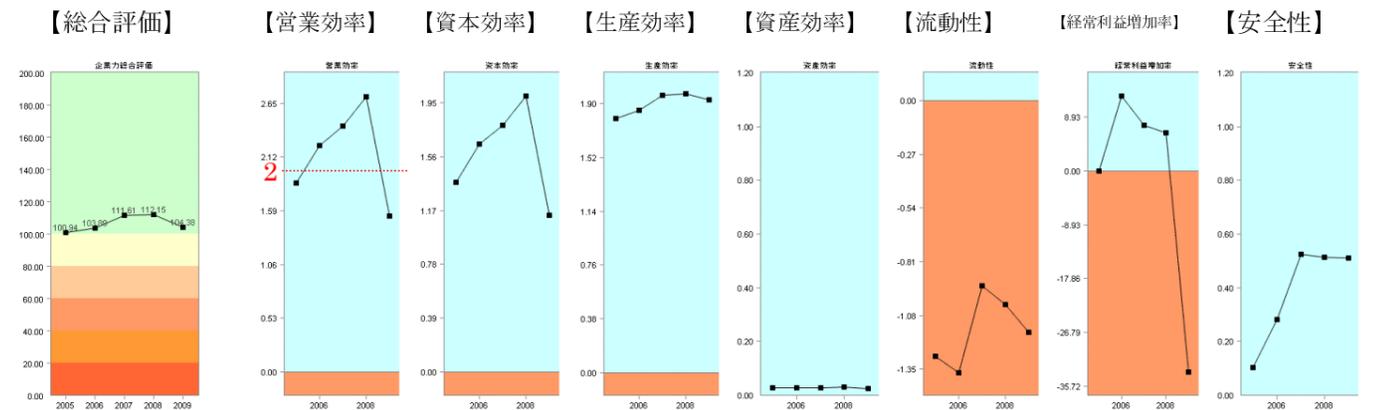
株式会社三越



随分企業力が低調です。80~100 ポイントに 5 年間にきれいにハマっています。カルロス・ゴーン氏が招聘されるまでの日産自動車(株) (SPLENDID21NEWS 第 10 号参照) のようです。営業効率も 1 から悪化トレンドでした。流動性も赤信号領域で、安全性を上げてバランスを取ってきました。こういうところは流石、1 部上場企業です。優秀な財務担当者の存在が分ります。それにしても、㈱三越を引き受けた㈱三越伊勢丹ホールディングスの企業力が引き下げられた原因の 1 つはこれになりますね。

株式会社高島屋を分析すれば、世界恐慌の影響がどれくらいかを取り出せるでしょう。

株式会社 高島屋



まとめ

とても悪い時期に、悪い会社と経営統合をした株式会社三越伊勢丹ホールディングスです。恐慌の影響のみを受けている㈱高島屋と比べれば、その衝撃は一目瞭然です。逆にいえば、㈱三越と㈱高島屋の総合評価の下落の和が㈱三越伊勢丹ホールディングスの 2009 年の下落度合と一致しています。